



会報 No.149 令和4年10月号

令和4年8月31日

八王子市長 石森 孝志 様

一般社団法人 八王子市私立保育協会

会長 石井



### 令和5年度 八王子市保育政策提言書

八王子市私立保育協会に対しまして、日頃よりご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。コロナ禍という非常事態の中、市内の保育施設で保育者がエッセンシャルワーカーとして業務を継続して全力で取り組むことが出来たのも、子ども家庭部の大きなバックアップをいただいでこそその結果です。特に保護者に対して、子どもたちが育ち合う保育環境における感染対策の難しさへの理解を求め、園に代わって保育環境を安全に保つことに対して協力要請をしていただけたことは、大変ありがたく感じました。この先もまだまだ厳しい状況が続くものと思われませんが、最前線で働く保育者たちを守り、保育施設が子どもの安心、安全を確保し、遊びや生活を通して育ち合う環境づくりに対してのご支援を引き続きお願いします。

待機児童解消が最優先課題だった時代から一転し、これからは人口減少化社会への対応が求められます。自然に恵まれた八王子の特徴を生かしながら、独自の持続可能な保育体制を構築していけるよう共に歩んでいくことを願って止みません。

八王子市私立保育協会は令和3年度より新たな体制となり、こうした様々な問題に取り組もうとしております。「子育てしやすいまち八王子」を共に目指して、保育政策会議で八王子市の保育の課題に協調して臨み、保育の質の向上の為に研修等に取り組んでいきたいと考えております。

令和5年度の政策提言につきましては、こども家庭庁の創設、子ども基本法などの施行を視野に入れた新たな連携の仕組みを考えた提言になっておりますのでご検討下さい。更に乳幼児期の教育・保育の質の向上については、幼児教育・保育センターが設置されたことを受け、その重要性が一層増していきます。国では幼稚園・保育所・認定こども園といった施設類型を問わず、幼児教育の質を向上し、小学校教育との円滑な接続を図り、接続期の教育を充実する必要性を提言していますが、八王子市はその点に対しても先駆的に取り組んでいただいています。それだけに今後は、教育部門も含めた乳幼児時期の教育・保育を総合的に統一感を持って進めていく必要があります。それは子どもの権利を中心においた「八王子市子ども・若者育成支援計画」を一体的に進めるための新たな仕組みを子ども家庭部内に創設する必要性ともつながります。令和5年度は子育てしやすいまちから、更に子どもたちが地域から愛されるための子どもへの人権意識を高める保育、教育の一大転換の年となることを意識して、保育政策会議を中心に市長との懇談会や市議会議員の皆様との情報共有を行い、豊かなまちづくりに寄与できるように努めてまいりたいと考えております。この度の保育政策提言につきまして、上記のような主旨をご理解の上、更なる園の改善向上のためのご理解、ご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

# 令和5年度 提言事項

## 〔提言1〕 予算関連要望事項

1. 子どもの処遇改善
  - ① 保育士の人材確保に向けた処遇改善の推進
  - ② 処遇改善キャリアアップ研修への支援について
2. 新型コロナウイルス対策に関わる予算
3. 宿舍借り上げ支援事業継続の要望

### 1. 子どもの処遇改善

八王子市は、市条例により保育所の最低基準を全国に先駆けて向上させる取り組みを行っており、子どもの福祉向上に対して非常に造詣が深く、誇りに思っております。八王子市児童福祉施設の設備及び運営の基準に関する条例においても「この最低基準を超えて、設備及び運営を向上させるように勧告することができる。」となっているとおり、引き続き子どもの福祉向上に対してより良い環境づくりのために連携していきたいと考えております。

次に挙げる項目はその構造的条件を保証することにより保育の質の向上を図るための提言です。

#### ① 保育士の人材確保に向けた処遇改善の推進

令和5年度から始まる基本構想・基本計画の中に4・5歳児の配置基準に対し、市独自の基準を検討しているとのこと大変ありがたく思います。

保育は一人ひとりの育ちに合わせた対応を求められ、常にその資質の向上が必要な職種です。そのため、子どもたちを理解しより適切な対応を考えるために、子どもから離れて記録を取り、話し合い、評価する時間が必要になります。(ノンコンタクトタイム)しかし、その環境はほとんど保障されておりません。このことは保育士不足の原因もなっていると考えられています。そのために現状にあった対応としてそれぞれの園が職員配置をチームで保育体制の構築に努力しております。(加配制度によりその環境を作っています)

毎年お示しさせていただいている配置基準の表にはそのような意図も含んだ実際の配置を示しております。引き続き、加配という発想ではなく抜本的な構想をお願いします。

	国	都	市	(実際の園での職員配置例)
0歳児	3対1	⇒	⇒	9人で3人+8時間パート1名
1歳児	6対1	⇒	5対1	10人で2人+8時間パート1名
2歳児	6対1	⇒	⇒	12人で2人+8時間パート1名
3歳児	20対1	⇒	15対1	15人で1人+8時間パート1名
4歳児	30対1	⇒	27対1	25人で1人+8時間パート1名
5歳児	30対1	⇒	27対1	25人で1人+8時間パート1名
	充実保育士2~3人+パート保育士			充実保育士2人

注) 職員配置例は障がい児担当者の配置等によって園ごとに異なります。

#### ② 処遇改善キャリアアップ研修への支援について

平成29年度より、処遇改善加算が新設されました。協会では平成30年度より東京都の指定を得て東京都保育士等キャリアアップ研修を始めました。令和3年度はコロナ禍の中でもリモートにより開催することができましたが、保育者等の処遇改善とも連動した制度なので積極的に取り組み、魅力ある職場環境やその質の向上に取り組みたいと考えております。そのため研修中に抜ける保育士の補充に対してのご支援をお願いいたします。

### 2. 新型コロナウイルス対策に関わる予算

八王子市が他市に先駆けて行った保育者への手厚い慰労金については、現場の職員たちに対して福祉施設で働くことへの責任と役割を知る大きな機会になりました。三密を避けられない職場であるというリスクを抱えながらも、子どもたちの笑顔と育ち合う環境づくりの重要性についてはどの保育者たちも意識しながら、誇りを持って働いています。そのため、子どもの命を守るという重い責務に対しても、自らが感染者にならないかという不安感も日々感じています。そこに対しての保育施設職員へのワクチン優先接種も非常にありがたい配慮でした。

今後、もし5類になった場合でもエッセンシャルワーカーとして働く保育者を守る為に必要なワクチン接種やその費用についても引き続き支援をお願いします。さらに園にいる保育者たちは近隣市町村から通勤しているケースもあるため、園にいるスタッフが区別なく支援を受けられるような支援をお願いします。

### 3. 宿舍借り上げ支援事業継続の要望

八王子市においては、保育施設に勤務している保育士等の不足が問題になっている中、八王子市で保育士不足を解消できるよう、また、保育士が安心して働けるよう、今後も東京都に準じた八王子市独自の宿舍借り上げ支援事業を継続していただけるよう要望いたします。

#### 〔提言2〕非予算関連要望事項

1. 八王子市の育児支援体制の再構築について
2. 各ブロックに幼児教育・保育センター等の設置を要望
3. 支援の必要な子どもの早期発見、療育に対する保育園利用について
4. 事務書類の効率化

#### 1. 八王子市の育児支援体制の再構築について

##### ① 幼稚園・保育所・認定こども園を束ねる子ども家庭部の再構築

子ども家庭庁の法案が可決され、子どもの権利が守られるための仕組み作りが国を上げてスタートしますが、八王子市では早くから子どもの権利について取り組み、子どもすこやか宣言を発し、子どものしあわせ課も創設する先駆的取り組みを行ってきました。しかし、新しい制度が次々入ってくることにより、保育行政全体を俯瞰して取り扱う部署が細分化され、所内の連携不足の感は否めません。

この先、八王子市では認定こども園へ切り替える施設が増えていくと思いますが、現在は公立保育園、私立保育園、幼稚園、認定こども園の所管がそれぞれ異なります。そのため、子どもの最善の利益を考えた制度や運営基準が統一されているようには感じません。今後、少子化により各園での欠員状態が進みますが、八王子市全体で育児支援を念頭に入れた園の活用を進めることで少子化対策を充実した育児支援へ向かうことができると思います。そのためにも子ども家庭部が一丸となって進むことのできる体制をお願いします。

##### ② 保育の質の向上に向けて

八王子市では乳幼児期の教育・保育の質に関する指針（乳幼児すくすくてくてくガイドライン）を作成していただきましたが、このような実践に基づいた保育の質の向上については幼児教育・保育センターだけで行うのは難しいと感じます。そのためには公立園の現場で実践を積み専門性を持った人材の登用を検討するとともに、幼稚園・保育所・認定こども園を束ねた研修システムなどの構築も必要です。協会はそのことに対して積極的にバックアップしますので、共にその仕組みを作るための連携をしていきたいと考えています。

##### ③ パート保育士、育児時間取得中の弾力的運用へのお願い

請求書の中にある「11時間開所パート職員」や育児時間をとる正規職員の扱いについての基準について、注意書きの内容が年度ごとに変わったり、算定の基準が実情とは合いにくくなっております。

この部分は認定こども園とも整合性を図る必要があると思います。より弾力的な運用ができるようにご配慮ください。

##### ④ 公私連携型保育園の在り方検討

八王子市私立保育協会では、公立保育園の一部民営化については賛成をしておりましたが、公立園についてはこの先子ども家庭支援センターや保健センター、保健所等との連携を強化した新たな育児支援体制への役割を担う必要性が高まると考えられます。そのため指定管理者制度や公私連携型保育所制度なども子どもの権利が守られる方向で運用できるように、現在委託している園が継続して運営できる制度そのものを市独自で見直していく必要があるのではないのでしょうか。地域の中で信頼関係を築き、安心感の中で子どもが育つ環境を保证するために「子どもへの責任」を果たす制度構築です。園は18歳までの子どもたちの育ちにも関わることのできる重要な地域リソースです。公立保育園の優れた部分と民間の発想を活かした新たな育児支援の仕組みが生まれるような運営基準を創設してください。

## 2. 各ブロックに幼児教育・保育センター等の設置を要望

協会は現在八王子市が決めた5ブロック体制により研修や会議が運営されています。保幼小連携もその一つですが第4ブロックには公立保育園がありません。育児支援、虐待予防などにおいても核となる公立園が存在していないので、現在は地域を超えた連携によりカバーしてもらっています。そこでブロックの検討も含め各ブロックに最低1つの公的な支援をお願いします。

## 3. 支援が必要な子どもの早期発見、療育に対する保育園活用について

八王子市は巡回相談システムがあり支援が必要な子どもたちへの個別支援が可能な状態にありますが、臨床心理士の数は十分ではありません。幼児教育・保育センターのスタッフを配置しアドバイザーを配置することも進みましたがここでも人数が足りません。それをカバーするためには保育の質を向上させ今以上に各園で個別支援を意識した保育を進める必要があります。そのためには地域のリソースを活用した連携が必要になってきます。八王子市は全国に先駆け妊娠期からの育児支援（ネウボラ）をスタートさせました。これは乳児への虐待死も増加の一途をたどっている現状や障がい児への支援、インクルーシブな社会の構築などを考えると、非常に重要な支援を始めています。園では生活の中で日々療育的な支援を提供できる支援環境を持っています。この活用が進むように専門機関同士のつながりを深める仕組みを強化してください。

### ・パート看護師の雇用経費

医療的ケアの必要な幼児の受け入れをする園は専門的な知識を持って拠点方式での受け入れが可能となっていますが、看護師一人では対応できないため複数配置も必要になります。このために必要な上乗せ雇用経費（保育士との差額）をお願いします。

### ・入所決定時の加配申請の省略化

個別支援が必要な園児の入園においては入所してからの加配申請によって人員配置をすることになりますが、園では常に余分なスタッフを配置しているわけでもなく、入園時に合わせて支援担当を配置できない場合もあります。子どものためにできるだけ早く職員配置ができるように、既に愛の手帳等を有しているケース等、初めから加配の必要性が判っている場合は、市が契約する時点で園へ加配の必要性を確認し、その体制がとれる場合は請求事務も簡略化していただけるようお願いいたします。

## 4. 事務書類の効率化、省力化

各園と市との間では、簡単な連絡などにおいては、メールの活用などすでに電子化が進みつつあるものの、依然として市からの連絡手段としてFAXが併用されており、園側からの書類の提出にもFAXや郵送、持ち込みが求められるなど、書類のやり取りについては、電子化の活用が一向に進んでいない状況にあります。

八王子市からのメールも様々な部署から来ることとなり、メールの量も膨大となり、散逸する危険性が高まってきています。そこで、現状のデータの「配布」を超えて、データサーバーなどを介して情報やデータの「共有化」を進めることが可能となれば、大幅に業務の効率化や省力化が進みます。他市区町村で、すでに実施されている先駆的な事例も参考にしながら、昨今の複雑化、煩雑化する事務作業を軽減するために喫緊のご検討をお願いします。

## 編集後記

ひと月で大分季節が進み、夕方暗くなるのが早くなりました。10月は、各園運動会、遠足、ハロウィーンなど、行事が盛りだくさんで子どもたちも楽しみが多い月ですね。

今年度の運動会は昨年度に引き続きクラス別の開催となりました。やはり、5歳児年長クラスの頑張りを見ると、ほかのクラスの子どもたちや保護者にも見ていただきたい思いになりましたし、全クラスの保護者で盛り上がった綱引きを思い出すと、大勢ならではの賑やかな楽しみを改めて感じました。しかし、クラス別の開催を行ってみて良さを発見することもあります。その一つは、子どもがお父さんお母さんを見つけやすいことです。安心しリラックスして実に楽しそうな表情の子どもたち。これもまた良し、です。子どもの笑顔を真ん中に、保護者と職員で様々な形の良さをを見つけながら進めていきたいと感じた秋の一日でした。皆さまの園はいかがでしたか？

(板野)